

鳥取東高通信

題字：紫山 抱海 氏

第179号
令和元年12月

編集・発行
鳥取東高等学校PTA
鳥取県立鳥取東高等学校
印刷 日ノ丸印刷株式会社

輝く瞬間



第61回

中国・四国地区高等学校 PTA連合会大会 鳥取大会

ひらけ翼！ はばたけ未来！
～ 巣立ち応援、親力!! ～

令和元年 7月12日(金) とりぎん文化会館梨花ホール



網谷 前PTA会長



PTA中・四国大会報告

健康・生活部 部長 三谷 浩子

9年に一度鳥取開催がまわってくるという絶好のタイミングとチャンスに恵まれました。県内はもちろん中四国の役員の方々とは触れ合うことで、校内活動のみならず他校の取り組みを学ばせていただく事ができました。それぞれが、学校の歴史と共に歩んできたPTA活動で特色があり、どの学校役員さんも、子どもたちのため親にできる最大限のサポートをしておられるのが印象的でした。

基調講演では養老孟司先生が「経験こそが自分の財産になる」と話されました。網谷前PTA会長が「専門部会の中でも健康生活部は、食育推進を柱に思春期の子どもたちの食生活を大切に活動をしていく中、今年は初めて学祭で保護者模擬店を出店する」と研究発表され、質疑応答では、保護者の関わり方、模擬店の取り組みについて興味をもたれ、東高ならではの保護者活動を行っているのだな、と改めて実感した事など、自分自身の経験で、有意義なものになりました。



養老孟司さん

大切にしたい思春期の食生活
～ 親から子に伝える生きる力～



平成30年度 鳥取県立鳥取東高等学校
PTA会長 網谷 恵治

(6) 活動を終えて

怪我をしない体づくりや卒業後の進路に向けて、
気力・集中力・忍耐力を養うために毎日の食事が
大切であると学んだ。

思春期の食生活は、将来の生活に大きく影響して
くる。「親から子に伝える生きる力」として、今後
も、食について子ども達が、「自ら学び、自ら作
る」ことが出来るように学校と協力していきたい。

東高生に期待すること 教頭 岩本 孝治



10月13日、ラグビーワールドカップ1次リーグのスコットランド戦で日本が勝利し、初の決勝トーナメント進出を決めました。試合後に、日本代表の福岡選手が「この時のために全ての時間を犠牲にできた」と話していました。ラグビーのためにどれだけのものを犠牲にできたか容易には想像できませんが、犠牲にできたものの大きさが、試合に臨む時の自信の大きさや試合での集中力につながっていたように感じました。

高校生にとっては、勉強と部活動などが生活の中心になります。時間には限りがあるので、やりたいことがあっても何でもできるわけではありません。何かに時間をかけて取り組めば、その分、我慢しないといけなことが増えます。ラグビー日本代表選手の「犠牲」を高校生活に当てはめることはできませんが、高校生にとっては何かを「我慢」して取り組んだ経験が、受験や部活動の大会などに臨む時の自信の大きさを発揮する集中力につながるのではないかと思います。結果として目標が達成できなくても、その経験は、きっと次に向かう大きな力となると思っています。

生徒のみなさんは、鳥取東高校で様々なことを経験していきます。その中で、何かを我慢する経験も大切にしながら、目の前の勉強や部活動などにコツコツと取り組んで欲しいと思います。その積み重ねが、将来への明るい希望につながっていくことを願っています。

鳥取東高PTA活動の様子



第2学年

研修旅行

3泊4日の旅

北海道
コース

1日目

2日目

空港にて

バス車内

阿寒湖アイヌコタン

釧路湿原自然散策

鳥取神社・
鳥取百年館

夕食time
ジンギスカン

昼食time
ちゃんちゃん焼き

バスガイド
ですが？

1日目夕食

普通科・北海道研修旅行

第2学年学年長 田中 典之

昨年度より行き先を変更して実施している研修旅行。普通科は、北海道(釧路・札幌・小樽)へ10月8日(火)～11日(金)の3泊4日の日程で計画・実施した。昨年度に引き続き、2回目ということで昨年度の反省点を改善し、さらにブラッシュアップした形での研修旅行を計画した。

初日の出発は昨年度から大きく変更し、鳥取空港に集合。1便と2便に3クラスずつ分かれて、羽田空港へ向けて飛び立った。羽田空港からは釧路空港へ向けて全クラスが1機に乗って移動。天候が悪く、場合によっては新千歳空港へ行き先変更するか羽田空港に引き返す可能性もあるという条件付きでの出発となったが、無事に釧路空港へ着陸することができ、なんとか予定どおりのスタートを切ることができた。初日の研修先は、阿寒湖アイヌコタン。はじめにアイヌ民族の歴史や思いを聞く講話からはじまり、古式舞踊やロスト・カムイの観劇、ムックリという楽器の講習とともに充実した研修となった。2日目は、釧路湿原と鳥取神社・鳥取百年館。釧路湿原では天気もよく、ネイチャーガイドさんの案内も丁寧で、鳥取とはスケールの違う大自然に触れることができた。鳥取神社と鳥取百年館では、宮司さんより具体的に分かりやすい説明をいただき、鳥取開拓団や釧路周辺の開拓の歴史、そして現在の鳥取市と釧路市の友好関係に至るまでの

流れが理解でき、昨晚のホテルで受けた歓迎ぶりがより深く感じられたと思う。午後は、バスで約5時間かけて札幌へ移動。北海道の大きさを改めて実感した。3日目の午前には北海道開拓の村。ここでもガイドさんによる丁寧な案内のお陰で、より深い研修をすることができた。1・3・5組は事故渋滞に巻き込まれ、研修時間が大きく削られてしまったことは、ちょっと残念であった。午後は、班別自主研修。2～6名で班を作り、入念な予習をして札幌・小樽周辺を研修。生徒にとっては半日では時間が足りないくらいであったようだが、集合時間に遅れることなく無事にホテルへ帰ってきた。最終日は、札幌市場外市場とクラス別研修。計画時点ではクラス全員でカーリング体験を計画したクラスもあったが、残念ながら予約がいっぱいで実現ならず。結果的には白い恋人パークと円山動物園へ分かれて行くこととなった。円山動物園は、予想以上の満足度であったようである。そして、新千歳空港から伊丹空港と神戸空港へ3クラスずつに分かれて帰路についた。

3日目に1名体調不良者が出たものの、午後からは回復して研修に戻ることができた。全体を通して大きなケガや事故はなく、なんとか天候にも恵まれ、充実した研修となったと感じている。生徒たちの満足度も非常に高く、今回の研修で学んだことや経験、そして4日間の思い出は、生徒たちの記憶の中に強く残っていると思う。今後の学校生活や人生に生かしてくれることを期待している。

百聞は一見に如かず

2年1組 三橋 有利亜

緑豊かな大地が広がる最北の地。それが私の北海道に対するイメージだった。しかし実際に訪れてみて、全てが想像を絶するスケールだと分かった。一番の良い例は4日間を通して移動した距離が約750kmもあったということだろう。道中では車窓から放牧されている牛や馬や羊、そして最近個体数が増えてきた特別天然記念物の丹頂を、ガイドさんの解説とともに楽しんだ。

北海道には豊かな自然が多く広がる一方で、3日目の班別自主研修で訪れた札幌や小樽のような大都市も多くあった。特に印象に残っているのは、夕食で訪れた小樽の「らーめん初代」本店でのことだ。店員さんの一人が鳥取県出身ということで話が盛り上がり、これも何かの縁だということで名刺を頂いた。ホテルへ帰りながらそのことについて話していると、ホテルの裏に着いてしまうというハプニングも起きたが、無事に帰ることができた。今度はガイドさんおすすめの冬に訪れたい。



研修旅行を終えて

2年3組 森下 紗妃

私は北海道には自然が多く残っていて、その状態がとてもきれいに保たれていることに驚きました。北海道は鳥取と比べものにならないほど広く、移動するのにも何時間もかかるのが普通だと、バスガイドさんが言っておられました。私たちははじめに飛行機で釧路に着いたのですが、そこからアイヌコタンへ行く道は、自然がとても豊かで、道すがらタンチョウを多く見ることができました。牛や道産子もたくさん飼われていて、酪農もさかに行われている様子が見られました。釧路湿原では、本州では見られない多くの植物がみられました。毒のある実でも、アイヌの人々は体調を崩したときに薬代わりに飲んでいたそうです。北海道の人々と自然は、今でも共存しているのだと思いました。

札幌小樽
班別自主研修



研修旅行を終えて

2年4組 山下 直人

研修旅行に行く前の自分にとって、北海道は寒くて広大な地で美味しいものが多いというイメージでしかなかった。しかし、研修旅行を終えた今、そのイメージはさらに深いものになっていった。

初日に訪れた「アイヌコタン」では、ロストカムイなどを見ることで「全てのものにカムイが宿る」というアイヌ民族独自の文化に触れた。また、翌日訪れた釧路湿原では、絶滅寸前の状態にあったタンチョウを、人々の懸命な保護活動により、その危機を脱したということが分かった。これらには北海道固有のものを大切にするという人々の想いがなければできなかったものだと思う。そして、そのような想いがあるからこそ北海道。美味しいものや美しいものが多い、自然が豊かで独自の文化が残っているかけがえのない地だと考えた。

4
日目



札幌市場外市場



学びの研修旅行

2年5組 奈良井 洸希

4日間という短くもかけがえのない時間は、忘れられないものとなりました。鳥取にはないもの、それは自然であったり、文化であったり、住民であったり。それらを見て、感じて、多くのことを学ぶことができました。例えば、アイヌコタンでは、文化の多様性をまのあたりにしました。熊を「キムンカムイ」と表したり、舞で頭を大きく振り回したりと、ふだんの身の回りの物事との大きな違いにカルチャーショックを受けました。しかしそれと同時に、私にとって衝撃的であっても、彼らにとっては、「当たり前」であるのだと、気付きました。自分と他人の「当たり前」が必ずしも一致しないということは、私たちが認識しておくべきことであり、理解して受け入れる努力をすべきだと感じました。文字数の都合上、全てのことをここに記すことは生憎できませんが、今回の研修旅行では様々なことを学ぶ機会ができ、考えたことを日々活かしていこうと思います。



白い恋人パーク



円山動物園



北海道研修旅行

2年6組 荒尾 優輝

僕が北海道で過ごした4日間は、想像以上に充実したものでした。特に印象に残っていることは2つあります。

1つ目は、釧路湿原です。ここでは、風を遮るものがなく、直に風が体にあたり、非常に心地良かったです。そして、釧路湿原の広大な自然など北海道の雄大さに驚き、感動しました。

2つ目は、班別自主研修です。自分たちで行き先などを計画していたので、研修前から楽しみでした。友達と札幌ラーメンやお寿司など北海道ならではのものを食べたり、テレビ塔に行ったり、札幌、小樽の町を歩き回ったり、班のメンバーと楽しいひとときを過ごし、良い思い出作りができました。

最後になりましたが、今回の研修旅行に関わってくださった方々、ありがとうございました。今回、学んだことを今後活かしていきたいです。



空港にて…



7組の3分7ツッキング!

西部林道

in YAKUSHIMA

シュノーケリング

リバーカヤック

ヤクスギランド

白谷雲水峡

研修旅行で感じたこと

2年7組 木下 珠里

屋久島での研修旅行は、普段、自然とふれ合うことが少なくなっていた私にとって非日常的な4日間でした。

2日目のリバーカヤックは、天候にも恵まれ、カヤックで川を登りながら川辺の動植物を観察することができました。また、カヤックから下りて釣りをしたり、川で泳いだり、川に飛び込んだりと自然を肌で直接感じることができ、とても楽しかったです。

4日目の白谷雲水峡は、霧が出て視界が悪かったけれど、ガイドさんと一緒に森の中に入ると、巨石や大木に生える自然のコケを見ることができました。霧の幻想的な雰囲気は、私たちをもののけ姫の世界に連れて行ってくれました。

私はこの4日間で自然が大好きだった幼少期を思い出すことができ、自然のすばらしさや壮大さを改めて感じることができました。今回の研修旅行は私の記憶の中に一生残り続けるものになったと思います。

屋久島での思い出

2年7組 中谷 真緒

私は研修旅行を通して屋久島の豊かな自然や生物、歴史について学ぶことができ、本当に良かったと思っています。

特に心に残ったのは、シュノーケリングです。台風の接近により残念ながら海岸ではなく港での実施となりましたが、たくさんの魚やサンゴを観察しました。岩かげにはウツボがいて間近で見ることができ、少しの間でしたがウミガメにも会うことができ嬉しかったです。

また、西部林道ではガイドさんに屋久島ならではの植物や昔の集落跡について教わり、植物独自の生き方の工夫を学びました。さらに、ガイドさんから、ヤクシカの数が増加したために食害が増えたので、どのように森林を維持していくのか、人間の手を加えるべきか否かという議論が行われているという話を聞き、自然を深く考える機会となりました。

充実した4日間を過ごすことができ、心に残る研修旅行となりました!!

屋久島に行ってきました

2年7組担任 大西 真理

屋久島研修旅行の立ち上げに関わり、今回が9回目というベテランの理科科主任を団長に、生徒40人+教員4人、屋久島に行ってきました!! 私にとっては、生徒ともども初めての屋久島。さまざまな生き物に出会い、五感のすべてをつかって自然に触れ、木登りをしたり、滝つぼに飛び込んだり、楽しそうな生徒の様子を見て、満ち足りた4日間でした。小回りが利く人数なので朝の日の出見学ツアーも、ほぼ全員参加。アットホームな民宿で美味しいご飯をいただき、天候にも恵まれました。最終日は霧が濃かったものの、それがまた屋久島のコケを一層美しく引き立て、波が高くて、シュノーケリングの場所が浜から港になったものの、参加した全員が海ガメに出会い、鳥取とはまた違う自然を、十分満喫しました。

それぞれの生徒が、さまざまな場面で心を動かされ、楽しいだけではなく、自然や文化に対しての価値観を見直し、忘れられない経験になった屋久島研修旅行だったと思います。

国体を振り返って

博田 凌太

今回日本一にされたことは本当に嬉しいが、たし、何よりもレースの最後の最後まで諦めなかったことが結果として出たので達成感を覚えることができた。また改めて、全国の大舞台では絶対に諦めないという気持ちで、勝てないというところをも、感じてきました。しかし今回の大会で気持ちにならぬのも負けないという自信があることに気付いたのだ、大学でもボートは続けて、どんな時も諦めない強い気持ちを武器に日本だけでなく世界でも戦える選手になりたいです。



博田 凌太 さん (3-6)

茨城国体ボート第1位!!

3年6組の博田凌太さんが、茨城国体のボート・少年男子シングルスカルで第1位になりました。おめでとうございます!



令和記念

万葉の郷とつとりけん

全国高校生短歌大会

本校二年生のチームが見事優勝しました!



この大会は、令和元年である今年、鳥取県主催で、全国の高校生を対象に開催された短歌大会です。募集に対し、11都道府県246チーム(16校)からの応募があり、本校チームを含む4チームが予選審査を通過して、10月12日(土)、鳥取市内で開催される大会に挑みました。

決勝の題は、先鋒「葉」、中堅「取」、大将「砂」

【先鋒】山根 陸さん

「夕暮れて輪郭になるイチヨウの木
そばまで行くと葉が落ちていた」

【中堅】平尾 大貴さん

「引き出しの去年のぼくを取り出した
あれからぼくの何が変わった」

【大将】熊田 遼佑さん

「消しゴムじゃ消せなかったよ何もかも
砂をあつめてそしてくずした」

で、見事本校チームが優勝しました。

また、大会出場チームの準決勝出場作品及び入選作品(86作品)の中から審査員特別賞(3作品)として、本校2年の青木柊斗さんの作品「道ばたで車にひかれて息絶えるあの鳥の名を僕は知らない」が選ばれました。



人権コラム

虹のしっぽ

子育ては奇想天外、3人の子どもたちはそれぞれ違った個性を放ち私を翻弄させてくれます。高校生は、スマホのお陰か…豊富な情報とスキルを持ち合わせ、日々進化をとげているようです。私は子どもから教わる事が多く、子どもの成長は私を親として成長させてくれる一つであることは間違いないと感じています。

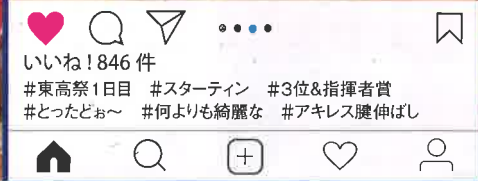
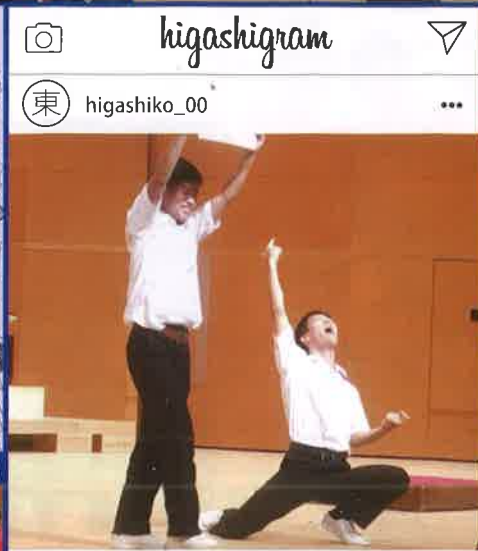
民法の改正により令和4年から成年年齢が18歳へと引き下げられ若者の自己決定の尊重や、積極的な社会参加が今まで以上に求められるようです。〈ワンチャン〉〈ありよりのあり〉〈あざまるすいさん〉〈てんあげ〉最近の若者たちが日常的に使っている会話1つ取っても時代の大きな変化を感じる今、成年になる高校卒業時までに基本的人権の尊重や多様な生き方を受け入れる柔軟な人権感覚を身につける人権学習は急務なのかもしれません。

人権学習というフィールドは誰しも難しく考えがちですが人権は日常生活のルールと思い、役員を受けるなら自分にとって学びの多い人権教育部と決めていました。様々な研修を通じて1人1人が大切にされる社会を目指して1年間親子で学んでいきたいと思っています。

〈人権コラム「虹のしっぽ」について〉虹にしっぽなんてあるわけないと決めつけないで…。もしもあるなら見つけてみたい。考えるだけで楽しい気分になりませんか?

東高祭 ①日目

2019.9.3.TUE とりぎん文化会館



東北訪問 2年2組 岩本 紗来
私は初めて東北訪問に参加しました。現地ではリアスアーク美術館、伝承館、陸前高田市を訪問しました。実際に現地の人の話を聞いて感じたことは、私がネットやニュースで得た情報とは異なる視点で話してください、震災の時の様子や復興している時の様子がとてもよく分かりました。この貴重な体験を通して震災についての見方や考え方が変わりました。この経験をしっかりと自分のものにしてこれからに生かしていきたいです。



合唱コンクール 結果

1位	3年4組		1年1組
2位	3年6組		3年7組
3位	3年7組		

指揮者賞





第70回東高祭 生徒会担当 中村 容

今年の東高祭は9月3・4・5の3日間で開催された。この時期は例年、台風の時期と重なり日程を予定通りこなすことができるか心配するのだが、無事終了した。

初日はとりぎん文化会館での開催で梨花ホール、展示室、小ホールを使つての開催であった。午前中は劇団あおきりみかんの公演で「僕の教室」という学園ものであったが、本校の生徒との絡みがよく考えられていて大いに盛り上がった。午後からは邦楽、吹奏楽、そして合唱コンクールと生徒の活動の発表で多くの保護者と一緒に堪能した。2日目は学校内での開催で全校が体育館に集合し、クラス演技からスタートした。生徒全員、全クラスが入念に準備した発表で、これもまた盛り上がった。午後からはゆっくり教室等での催しものを各自が体験した。最終日は体育祭で気温が高く熱中症対策をしっかり行つての開催だった。1年生が苦労して作ったシンボルや各学年の特色を生かした種目等、執行部が企画した競技がスムーズに行われ、水分補給の時間を取りながらの進行であった。そして、フィナーレを迎え、各学年が一つの輪になって踊り、日頃触れ合うことのない生徒同士と一緒に踊り大いに刺激を受け、学校全体が一体になって祭りを行った充実感が押し寄せて終わることができた3日間となった。

☆2019年度 東高祭
部落解放研究部☆

